

令和6年8月6日（火曜日）



## 【山形・秋田豪雨現地視察】気候変動の影響が／降雨状況変化へ対応を／足立敏之参議院議員が視察

自由民主党の足立敏之参議院議員が7月25日～26日に発生した山形・秋田豪雨災害で、30日に被災地を視察した。今後求められる対応として▽再度災害の防止▽気候変動の影響を考慮した河川整備基本方針・河川整備計画の見直し加速▽重要道路区間の事前防災対策▽貯留施設の着実な整備▽側溝などの断面サイズ見直しなどを掲げている。特に降雨状況が変化しており、あらゆる面に影響している。



日本海沿岸東北自動車道の被災現場

被災地視察は、最初に山形県遊佐町出戸の日本海沿岸東北自動車道下り線を訪れた。片側車線が30mにわたり陥没し通行止めとなっている。路面排水では処理しきれない大雨に見舞われ、側溝、集水桝で呑みきれなくなり、洗掘されて被害が出たのではないかと。集水桝がひっくり返っており、そこからどんどんぐられて大きな被害につながったのではないかとの見解を示す。足立議員はこのような被害は初めて見たと話している。

続いて酒田市大沢地区の日向川支川荒瀬川越水被害、国道47号の道路崩落現場、鮭川村川口地区などの土砂崩れ現場、新庄市合海での新田川決壊被害現場を視察。秋田へ移動し由利本荘市の子吉川右岸、支川石沢川左岸の堤防決壊現場を視察した。



被害状況の説明を受ける足立議員（手前）

足立議員は、視察を終えて今後求められる対応を示した。

一つは激甚な水害に見舞われた河川では再度災害の防止、改良復旧をやらなければならない。温暖化の影響で雨の降り方が変わっており、かつてなかったような秋田、山形でこのような大きな雨が降るようになれば、事前防災への取り組みの強化が大切。

気候変動の影響を考慮した河川整備基本方針などの見直しを加速する必要がある。

また、寸断されると広域の迂回をせざるを得ない重要な道路区間については、事前の防災対策を行い、信頼性の高い道路整備を行っておく必要がある。さらに、建設中の鳥海ダムのような貯留施設は下流での水位低下効果が見込まれるため、着実な整備が必要とした。

温暖化の影響で、側溝の大きさなどを見直さなければならないのではないかとの考えを示した。「今までこの地域ならこのサイズの側溝で良かったものが、雨の降り方が変わり雨量が増えたとなればサイズを大きくしなければならない。そういった見直しが温暖化に伴って新たに出てくるのでは」との見解を示した。